



指揮も歌手も超充実、映像史上最高の《魔弾の射手》

ウェーバー・歌劇《魔弾の射手》全3幕

アクセル・ケーラー(演出)クリスティアン・ティーレマン指揮ドレスデン国立オペラ(シュターツカペレ),ドレスデン国立歌劇場cho,ミハエル・クーニヒ(T)サラ・ヤクビアク(S)アドリアン・エレート(Br)アルベルト・ドーマン(Bs-Br)クリスティーナ・ランツハマー(S)他
(録音2015年4月(L))

[C MAJOR]KCC91 47 (BD),KCC91 48 (DVD-V)⑤

ディスク紹介 浅里公三

2012年にドレスデン国立歌劇場の楽長に就任してから、ティーレマンの水を得た魚のような充実した活動は、CDや来日公演などでも明らかである。とりわけドレスデンに縁の深いオペラであるこの《魔弾の射手》は、ドイツ・ロマン派の最初の傑作であるこの作品の魅力を見事に表現したビデオ・ディスクである。ドレスデンが壊滅的に破壊された第二次大戦終了70年、本拠のゼンパーオーバー再建30周年記念の年の新演出上演だけに、歌劇場の総力を挙げての上演だったのだろう。マックスのケーニヒ、アガートのヤクビアク、オットカールのエレート、クーノーのドーマン、カスパールのツェベンフェルト、隠者のパウアーなど、それぞれ適役を揃えたキャストの歌と演技もすぐれているし、ティーレマン指揮の管弦楽団と合唱団も素晴らしい。演出も舞台を30年戦争後を大戦直後のドレスデンに移し、不気味な狼谷の場をはじめ荒廃した世界を描くのに成功している。



クリスティアン・ティーレマン
© Matthias Creutziger

私たちの《魔弾の射手》のビデオが、「レコード芸術」誌の第54回レコードアカデミー賞の受賞することとなり大変うれしく思います。

ウェーバーの《魔弾の射手》は、ゼンパー・オペラ(ドレスデン州立歌劇場)の歴史上とても特別な意味を持つ作品です。宮廷のカレル・マイスターであり、ドイツ・オペラの音楽監督を務めたオペラの天才、カール・マリヤ・フォン・ウェーバーは、ドレスデンの宮廷劇場の責任者も務めており、その礎を築きました。第二次世界大戦においてゼンパー・オペラは破壊される前の最後の公演、そして1985年に再建されてからの最初の狂宴な公演が《魔弾の射手》でした。1500回以上もの公演数を誇る《魔弾の射手》は、ゼンパー・オペラにおいて最も多く公演されてきた演目です。確かに、ワグナーやR.シュトラウスといったドレスデンの劇場の神ともいえる存在の陰に隠れてしまうこともあるウェーバーですが、彼のオペラ作曲家としての評価は過小評価されてはなりません。二人のオペラ作品として、ウェーバーの存在なしには考えられません。

それだけに2015年5月にドレスデンのゼンパー・オペラにおける新制作の《魔弾の射手》において音楽監督を務めることは大きな喜びでした。この制作に関わったすべての人々、素晴らしいリスト、舞台スタッフ、技術陣、そして歌劇場合唱団、そしてもちろん他に類を見ないシュターツカペレ(ドレスデン国立管弦楽団)、彼ら全てがその受賞の対象です。翻訳・久野理恵子

選考経過 受賞ディスク決定まで 浅里公三

レコード・アカデミー賞の特別部門として「ビデオ・ディスク」部門が設けられたのはレーザー・ディスクが最盛期を迎えた1990年からで、さらにDVD時代になった2007年から対象ディスクが多く多岐に渡るため「コンサート&ドキュメンタリー」と「舞台&劇作品」に分けたそうだが、今年度の「舞台&劇作品」部門のノミネート・ディスクは1点であった。この部門は、オペラなど字幕を必要とするものが多いためか、この数年は海外盤に比べて国内盤のリリクスが減少気味であり、また二人の評者が推薦して特選盤にならないと受賞の対象にならないためである。過去には一度だけ受賞作なしとした年があったようだが、対象ディスクが1作であっても、それが受賞にふさわしいかどうかを討議することにした。選定は今年度も諸石氏と行なった。ドレスデン国立歌劇場がとりわけ重要なレパートリーとする《魔弾の射手》は、80年代に2種のLDがあったが、昨年収録のティーレマン指揮のディスクは、音質と映像はもちろんのこと、演奏・演出とも格段に素晴らしいこと、またこれまでに視聴したこのオペラのディスクの中でも最もすぐれていると意見が一致したので受賞作品に決定した。

受賞アーティストからのメッセージ クリスティアン・ティーレマン